

第41回

うつのみやこども賞だより

令和6 (2024) 年度 3回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番友達にすすめたい本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『直紀とふしぎな庭』

山下 みゆき／作 もなか／絵 (静山社)

～読んだ本の感想より～



令和6年8月4日

- たくさんの出会いと別れを感じられるお話で、とてもおもしろかったです。シロ(猫)や水野さんが化け猫だったときはとてもびっくりしました。
- 最初はおじさんの庭がこわいというイメージがあったけど、とちゅうからイメージがわくわくしたり感動したりしていくイメージになっていて楽しかったです。
- 直紀とおじさんがたいけんする少しドキッとするお話がとてもおもしろかったです。
- 直紀といろいろなようかいたちとのエピソードで、悲しいところもあったけどおもしろかったです。
- 小夜さんのところの話で、3人が体を張ってがんばっていたのが心に残った。
- 直紀がおじさんの庭でおこるいろいろな「フシギ」に立ち向かうところがかっこよくて好きでした。
- 古い家だからといって家賃 5,000 円にはおどろいた。続きが読みたくなった。

『アナタノキモチ』 安田 夏菜／著 (文研出版)

- おばあちゃんもお母さんもずっとおじいちゃんのことを我慢して、ハルくんが来たことによってその感情が爆発して、家族がバラバラになってしまうところが辛かった。最後はおじいちゃんも改心してまた仲良くなってよかった。
- 人の気持ちをくみとるのは障害者でなくても難しいことだと思いました。
- しょうがいのあるハルくんを、ひよりやおじいちゃんを目線で書かれているところがよかった。
- ハルくんがひよりの家に来たことによって、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんの気持ちをそれぞれ伝え合って、前よりもいい家族になることができている良かったです。
- 途中で家族とのケンカがあってハラハラしたけど、ハルくん特製のたまごやきで仲直りできて良かった。

『尊敬する人はいません (今のところ)』 中山 聖子／作

(文研出版)

- 2人の家、どちらにもなやみがあったけれど、最後は2人ともスッキリ解決できていて良かったです。
- 尊敬する人がいても、途中で尊敬していた人がとつぜんいやになってしまうこともあるんだなあと思った。
- 今の小学生の気持ちや、大人のじょうなどがリアルにかかれています。同感できることが多かったです。
- 若羽の父のマジカルクリニックはたしかにあやしいと思い、気持ちに共感できる。

『ともだち』 椰月 美智子／作 (小学館)

- ジュンの友達のシンのお父さんがけいさつに取り調べをされて、とてもおちこんでいるときに、みんなでシンやほかのみんなと助け合っているところに感動したし、感心しました。
- ケントが教科書を切ってしまった事件での話し合いでは、みんな自分の意見をはっきりとっていてすごいなと思いました。
- 小学校最後の1年の、6年生たちの日常を読めておもしろかった。